

おわりに

現代日本の社会は、今大きな転換の時期を迎えていると言うべきであろう。科学技術の発展は、交通手段を発達させて国際化時代を招き、通信技術を向上させて情報化社会を創り、医療技術を進歩させて高齢化社会を生んだ。そのような社会の中で人々は常に新しい知識を求め、あるいは余暇を活用し、また心の癒しを求めて生涯学習社会とも言われる時代をも現出した。

一方、大学を取り巻く状況も大きく変化しつつある。大学進学率は上昇して学生の質的变化を来たし、また、少子化時代を反映して、進学率は上昇しているにも関わらず入学者数は減少の一端をたどって、大学冬の時代とさえ言われている。

私立大学はそれぞれに建学の理念を持ち、目的とするところを達成しようとしているが、このような時代・社会の動向に、大学はどのように対応すべきであり、そのための運営は十分になされているのか。大学自らが、このことを不断に問い続けてゆかねばならないのである。

本学は、このような自己点検の必要性を認識し、平成5年度よりその実施方法などについて検討を開始した。平成7年に至り学内教職員より「自己点検・評価報告書編集準備委員」を指名して、点検・評価の基本方針、その内容、編集方法などについて検討を重ねた。その結果、大学運営を点検し、評価するものとして、大学の実情を網羅した報告書を『大谷大学白書』として編集する成案がまとまり、平成8年4月、正式に「大谷大学白書編纂委員会」を組織した。

「白書編纂委員会」においては、大学運営について正しい評価を行うには、まず現状の正確な把握が必要であるとの考えに立ち、平成7年度末時点での大学の実態と、学科組織改編、カリキュラム改革など変革がやや大きかった過去5年程度の基礎的なデータを収集すること、建学の理念については、その実現が大学運営の根幹に関わることから、特にこれを深く検証すること、などを方針として編集作業を開始した。また、大学の改革などについては、その当初の基本理念を検証する意味から、できるだけ改革が行われた当時に書かれた文章を収録することにつとめた。

白書編纂の作業のなかから、大学運営の実態を深く検討して正しい自己評価を行うべきことも指摘された。しかし、大学運営の評価については、厳正を期す意味において点検作業とは別に行われるべきであるとも考えられ、次年度に設置されるであろう「点検・評価委員会」にこの作業を引き継ぐこととして、今回は専ら実態の把握に努め、「大谷大学白書—その実態—」として刊行することとした。

また、今回点検された事項以外にも、点検を行う必要があると考えられる項目も指摘されたが、点検・評価作業は本来継続して行われるべきであると考えられ、これも次年度以降の委員会に申し送ることとした。

大学運営全般について点検することをめざしたこともあり、白書編纂作業には思いがけず長時間を要することとなったが、このほど漸く編集作業を終え上梓の日を迎えた。ひとえに白書編纂に対する学内各位のご協力の賜物であり、この場をかりて感謝申し上げるものである。

平成9年3月

大谷大学白書編纂委員長

藤 島 建 樹

大谷大学白書編纂委員

委員長・教授	藤島建樹
教授	木村宣彰
教授	堀尾孟
教授	佐々木令信
助教授	並木治
専任講師	一楽真
総務部次長	岩城舜一
企画調整室長	稲垣淳造
企画調整室	岡田治之
総務部総務課	本田求
教務部学務課	河原育実
学生部学生課	藤谷徳孝
図書館課	金厚志
学术交流センター	沖田彩子

知進守退

大谷大学白書—その実態—

1997年3月31日発行

編 集 大谷大学白書編纂委員会

発 行 大 谷 大 学
〒603 京都市北区小山上総町
TEL 075-432-3131(代表)

印刷・製本 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075-441-3155(代表)
